は　じ　め　に

平成２８年１２月,「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が中央教育審議会より示されました。

この答申でも述べられているように，社会の変化は多くの要素が多様に絡みあい，予測が困難となってきています。そのため，これからの学校教育には，社会の変化に受け身で対処するのではなく，主体的に向き合い，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる子供たちを育てていくことが求められています。

このような社会的背景を踏まえ，教育センター学びの丘では，社会の変化に柔軟かつ主体的に向き合い,「社会に開かれた教育課程」の担い手である教員を支援していくために,「研修」「研究」「支援」を３本柱として，これらを相互に関連付けながら各種の事業を展開しています。

本誌は，当センターが実施する各種事業が，より充実し，学校現場に寄与できるものとなるよう所員が今年度研究した，以下の５つの内容を掲載しています。

「子供の気付きを導く地層・地形の野外観察プログラムの提案」は，中学校理科の地球領域における深い学びの実現を目指した野外観察の学習プログラムを提案しています。

「全国学力・学習状況調査におけるサンプル分析の活用」は，当センターが取り組んだ，全国学力・学習状況調査のサンプル分析及びその内容を授業改善に生かすための研修プログラムについてまとめたものです。

「『知の構造』を意識した『逆向き設計』論による単元構想」は，本県の課題である国語科の授業改善について，単元構成力の向上に視点を当てることの重要性を示唆した提案となっています。

教育相談の分野からは,「個と集団へのアプローチ」として，本県がこれまで培ってきた「和歌山方式」の教育相談スタイルを基盤に，新たな学校課題への対応として教職員集団へのアプローチの方向性を考察しています。

特別支援教育の分野からは,「特別支援学級の現状と支援の在り方についての一考察」として，特別支援学級数の増加と，それに伴い新たに担当する教員が多くなっている本県の現状を踏まえ，今後の研修内容の充実に向けた考察をしています。

以上，これらはいずれも本県教員及び学校組織が、自らの課題に対して主体的に解決を図るための一助となる研究内容であると考えています。本誌の内容が本県教育のさらなる充実につながることを願うとともに，ご高覧いただければ幸いです。

平成２９年３月

和歌山県教育センター学びの丘
所　長　　池　田　尚　弘